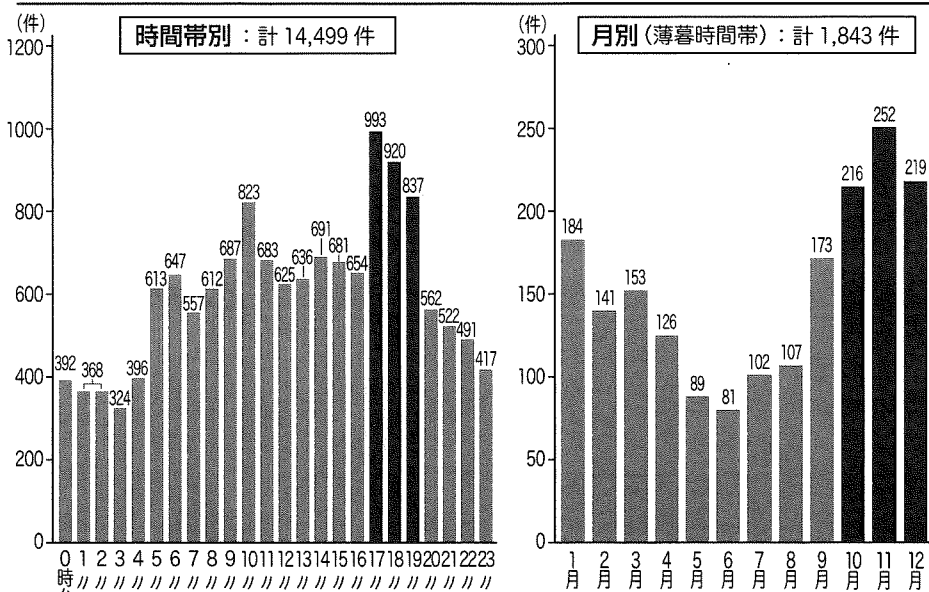


交通安全の心得

10~12月は薄暮時間の事故が多発 早めの点灯と危険予知の運転行動を!

時間帯別・月別の死亡事故件数 (平成30年~令和4年)



注)「薄暮時間帯」とは、日の入り時刻の前後1時間をいう。

日の入り時刻は、各日の各都道府県の都道府県庁所在地(北海道は各方面本部所在地を含む。)の国立天文台天文情報センター暦計算室の計算による日の入り時刻による。

10月になると日没時間が早くなり、暗くなる時間も同様に早くなり、道路状況も変化します。警察庁によると2018年~22年の5年間の交通死亡事故は、日没時間を含む17時台~19時台に多く発生しています。年間でも特に10月~

12月は薄暮時間(日の入り時間前後1時間)の死亡事故件数が多くなっています。

その薄暮時間の死亡事故件数の48%は「自動車対歩行者」で一番多く、昼間の発生件数と比べると約3.3倍です。そして85%を「横断中」が占め、その7割が「横断歩道以外」で発生しています。

車の運転時の注意点

① 急な横断に備えた運転：歩行者の横断に備えてスピードを控える。視野を歩道も見えるように広く持つ。歩行者は「車が止まってくれる」と思いがちなため、運転者が「歩行者が横断してくるかもしれない」と想定する。

② 前照灯の活用：歩行者や自転車認識できるよう、早めに点灯する。対向する車や自転車がない時はハイビームを使用し歩行者・自転車を早く認識します。(冬の服は黒っぽい色が多く目立たない。特に高齢者は顕著。)

歩行中・自転車での注意点
目立つ明るい色の服を着る。反射材を服やカバン等に付ける。

(引用「警察庁ホームページ」より)